

令和 4 年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
筑波大学附属坂戸高等学校	国立大学法人筑波大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
筑波大学附属坂戸高等学校	<a href="https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp/research-bulletin/">https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp/research-bulletin/</a>

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
筑波大学附属坂戸高等学校	<a href="https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp/research-bulletin/">https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp/research-bulletin/</a>	<a href="https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp">https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp</a>

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- (
- ⊙計画通り実施できている
  - ・一部、計画通り実施できていない
  - ・ほとんど計画通り実施できていない
- )

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- (
- ⊙実施している
  - ・実施していない
- )

#### <特記事項>

毎年実施している教育研究大会では、学校・教育関係者および保護者に対して研究授業を公開し、意見をいただく機会をもっている。

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は平成6年に総合学科を開設して以来、四半世紀にわたって総合学科教育の在り方について実践研究を重ねてきた。現在は「複雑で予測の難しい社会の変化を前向きにとらえ、多様な他者と協働して新しい未来の姿を構想し実現していく人材となるために必要となる資質・能力を、総合的・体験的・実践的な教育を通して育成する。」という教育目標を掲げ、「Engage today. Empower tomorrow.」を合い言葉に教育活動を進めている。この目標・理念達成のために最も必要なことが、生徒達に当事者性をいかに育むかということである。本校では、グローバルイシューに対しても「当事者性」をもって取り組んでいくこと、そのためには様々な現場を訪れ1次情報に触れることを重視している。しかし、すべての高校生がそのような多くの現場で学ぶことはできない。そのため、「グローバルライフ」では、すべての生徒がグローバルな課題と向き合い、世界の諸課題に対して当事者として関わることのできる素養を身に付けるために(地球市民性の醸成)、高等学校必修科目である「家庭基礎」をベースに授業を展開している。

授業の受講を終えた生徒に対して行ったアンケートの結果によれば、生徒達からは「今までは地球が抱えている課題について考えることがあまりなかったのですが、この授業を受けてから、環境問題などについて考える頻度が増えたように感じます。」や「世界の問題から、身近な問題について自分ごととして考えることができました。特にパーム油は、その名前は知らなかったけど身近なものにたくさん使われていることを知り、問題点についても知ることができて良かったです。知らないままより、知って考え、実際に行動することが大切だと思いました。」といった意見が寄せられている。授業をきっかけとして自身の行動も具体的に変化したとの意見もあり、生徒のアンケート結果からは科目の目標は達成されていると考えられる。

##### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本科目の目標を次のように設定している。

「人の一生、生活に関する学びを地球規模で考え、地球に暮らす一人としての意識を持たせる。家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得していく中で，日常生活の中から世界とのつながりを意識し，自分の生活，家庭，地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」

さらに、生徒に身につけてほしい力を次のように設定した。

「日本と世界とのつながりを理解し、これからの自分の生活を創造するための3つの力を身につける」

- 1) 日常生活の先にある世界を想像できる力
- 2) 日常生活から世界の課題を発見できる力
- 3) 自分の考えを他者に伝え相互に共有できる力

これらの3つの力を身につけるため、教員による知識伝達以外にも「自ら調べ、課題を発見すること」「他者との意見共有」などの時間も重視している。

「グローバルライフ」は高等学校必修科目「家庭基礎」を代替している科目である。「家庭基礎」における学習内容は多岐にわたる。そのため、家庭基礎で身につけさせた概念などをふまえつつ、生徒が実感しやすく発展的に考えることのできる分野を絞り、開発していくこととした。最終的に、衣分野、食分野、社会との共生分野、生活とグローバル課題を考える分野の4分野で内容を構成した。本科目では、いかに“自分のこと”としてとらえられるかを大切にし、身近なことから考え続けていくことを願い、題材を選定している。

学校教育法には高等学校教育の目標として、社会の形成者として必要な資質を養うこと、社会の発展に寄与する態度を養うことなどが示されている。本科目は、学校教育法の目標を達成するための基礎的素養を身につけることに大きく貢献しているものと考えている。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

これまでと同様に客観的な授業評価をどのように行うかという点については、引き続き議論を深めていく必要がある。授業等の質的評価方法は、本科目以外の学習活動においても重要な課題となっている。今後、大学の研究者等の指導・助言も受けながら校内で研究を重ねていく予定である。